

2月のイベントカレンダー

1	水	
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	休館日
6	月	休館日
7	火	13:30 日本語サロン
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	休館日
12	日	10:00 子ども日本語ひろば
13	月	休館日
14	火	13:30 日本語サロン
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	休館日
20	月	休館日
21	火	13:30 日本語サロン 18:30 幹事会
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	13:30 FINE発送作業
26	日	10:00 子ども日本語ひろば 14:00 難民を知るワークショップ
27	月	休館日
28	火	

お手伝いをお願いします

情報紙FINEの発送作業のお手伝い(封づけ、糊付けなど)をしてみませんか。当日直接お越しください(申込不要)。  
日 時 2月25日(土)13:30~ (場所:当協会)

会津若松市国際交流協会

〒965-0871 会津若松市栄町2-14  
レオクラブガーデンスクエア5階  
TEL 0242-27-3703 FAX 0242-27-3704  
ホームページ <http://awia.jp> メール [mail@awia.jp](mailto:mail@awia.jp)

2017年カレンダー「This is Fukushima」

県内の在住外国人の皆さんが作成したカレンダー「This is Fukushima これが福島です」を無料で配布しています。彼らが撮影した福島県の美しい名所の数々が、日本語と英語の説明と共に掲載されています。ご希望の方は当協会事務局までお越しください。数に限りがあります。

ヨーロッパをよく知ろうセミナー

スロヴァキアの文化・ライフスタイルについてのお話です。講演後はヨーロッパのお菓子と共にティーパーティが開催されます。  
日 時 2月24日(金)14:00~ 場 所 ホテルニューパレス(市内中町)  
講 師 駐日スロヴァキア共和国 特命全権大使 コットマン・ミナルさん  
定 員 40名(定員になり次第締切) 参加料 1,500円  
主催・申込み・問合せ 会津EU協会事務局(会津若松商工会議所内)  
TEL 0242-27-1212 FAX 0242-27-1207

荊州市青少年書画交流事業展示会

会津若松市の友好都市、中国湖北省荊州市の子ども達の書画を2月13日(月)までレオクラブガーデンスクエア3階に展示します。ぜひご覧ください。※問合せ 会津若松市企画調整課 TEL 0242-39-1201

会津の三十三観音めぐり~巡礼を通して見た往時の会津の文化~  
日本遺産認定記念シンポジウム

当協会会員の手代木トイさん(出身国:カナダ)と杉井雄汰さん(会津大学学生)が第二部のパネルディスカッションに参加します。  
日 時 2月13日(月)13:00~ 場 所 会津若松ワシントンホテル  
内 容 第一部 スペシャル対談/テーマ「日本の観光遺産とその活用法」、第二部 パネルディスカッション/テーマ「地域魅力再発見&インバウンド対策」  
定 員 200名(要申込) FAX、はがき、メールでお申込みください。  
主催・申込み・問合せ 福島民報社会津若松支社  
FAX 0242-38-2193 メール [wakamatsu@fukushima-minpo.co.jp](mailto:wakamatsu@fukushima-minpo.co.jp)

日本語教育活動成果セミナー

日本語教育の成功事例や外国出身の方々からの日本語教室での学習のエピソードの発表等があります。参加費は無料です。  
日 時 2月25日(土)13:00~16:00  
場 所 (公財)福島県国際交流協会研修室(福島市舟場町)  
内 容 外国出身の学習者の方々から日本語学習の体験談発表、生活者としての外国人のための日本語教育についてパネルディスカッションなど  
主催・申込み・問合せ (公財)福島県国際交流協会  
TEL 024-524-1315 メール [info@worldvillage.org](mailto:info@worldvillage.org)

多言語防災ビデオ 地震!その時どうする?

地震の知識や経験のない外国人住民を主な対象として、地震に対する備えや、地震が発生した場合の対応について分かりやすく説明しています。防災訓練や研修で活用できます。  
作 成 公益財団法人 仙台観光国際協会  
◆多言語防災ビデオ「地震!その時どうする?」ダイジェスト版  
<http://int.sentia-sendai.jp/blog/j/j-1650/> (12カ国語対応)

FINE

Freedom/International/Necessity/Experience

~難民を知るワークショップ~ もし、あなたが故郷を追われたら...  
2月26日(日) 14:00~16:00

今世紀最大の難民と言われているシリア難民。480万人もの人々が難民として他国に逃れています。皆さんは「難民」と聞いてどんなことを思い浮かべますか? ニュースだけでは伝えきれない「難民」の人々の生活を体感しながら、難民問題について一緒に考えていきます。  
日 時 2月26日(日) 14:00~16:00  
場 所 会津稽古堂 研修室1  
講 師 認定NPO法人IVY理事 阿部真理子さん  
対 象 どなたでも(中学生以上)  
定 員 20名 ※参加料無料  
申込み 2月25日(土)まで当協会へ

【内容】最初に、クイズ形式で難民についての基礎的な知識を学びます。そして、家族がシリア紛争に巻き込まれ、難民となってイラク・クルド自治区の難民キャンプにたどり着き、3か月を過ごしたところで次の課題が見えてくるところまでを模擬体験していきます。  
※参加者はグループを作り、シリアに住む一組のクルド系シリア人の家族となります。  
※「難民申請書」に実際に記入してみたり、「配給カード」を使って家族の食糧を受け取ることを実際に体験する場面もあります。  
■ワークショップのシナリオは、IVYの現地職員が難民の方々から聞き取った内容をもとに作られています。

国際理解講座

~お知り合いの外国人へお知らせください~ 日本語サロンを開催しています!

当協会では在住外国人のための日本語教室「日本語サロン」を通年で開催しています。会話を楽しむことが中心の教室です。日頃日本語を使う機会がない、もっと日本語を話したいという方がいれば、ぜひこの教室を紹介してください!  
開催日 毎週火曜日 13:30~15:30  
場 所 会津稽古堂 研修室1  
参加費 2,000円(年間)  
※参加には当協会の会員登録が必要です。事前にご連絡ください。



「新年最初のクラスは、書初め! 今年の抱負を発表しました」

FM会津

地球まるっとてれぽーと  
※毎週木曜日 18:20~18:25  
ハロー! Aizu  
※毎週火曜日 18:30~18:35  
※毎週金曜日(再) 8:20~8:25  
FM会津 76.2MHz

当協会では、FM会津の番組「イブニング愛's」で放送されている「地球まるっとてれぽーと」と「ハロー! AIZU」のコーナーを担当しています。「地球まるっとてれぽーと」では、当協会の会員の方々がゲストに迎え、世界にまつわるさまざまなお話を伺います。「ハロー! AIZU」では、当協会国際交流員のマガレット・ブライスが市内のイベント情報などを英語で発信するだけでなく、時には英会話のワンポイントレッスンなどもあります。英語のリスニングの練習に、最適です!



お友達、ご家族、同僚の方々など...ご紹介下さい! 問合せ・申込は当協会事務局へ!

会津若松市国際交流協会では会員を募集しています。会員の方には、情報紙FINEを毎月お送りします。  
Like what you see in these pages? Why not receive news (English information in Just The Fax) and opportunities every month as a member?  
欢迎你加入会津若松市国际交流协会。每月我们将为每位会员邮送中文或日文的信息报纸。  
아이즈와카마치시 국제교류협회에서는 회원을 모집하고 있습니다. 친구분들, 가족분들, 회사동료분들을 소개해 주시기 바랍니다.

※各事業実施に伴う写真撮影及び掲載許可について(お願い) 事務局が皆様の活動の様子を撮影し、情報紙やホームページ等に掲載する場合があります。掲載されたくない場合はお申し出ください。

## 国際交流 深イ話 第57回



### Busby Chiz バスビチエさん

アメリカ人のご主人と共に会津若松市内で女子専用下宿「@Home Aizu」を運営しているバスビさんの深イ話です。  
◆@Home Aizuホームページ <http://www.athomeaizu.com>



←左がチエさん、右がデイビッドさん

1982年、結婚と同時に南国ハワイに行ったのですが、最初は何もすることがなく、毎日主人の帰りを待つ日々。英語が全く話せない、聞き取れない、友達もいない、テレビを見ても何を言っているのか分からない生活。軽い鬱になってしまった。そんな時、見かねた主人から、移民のための無料の語学学校へ行って、自分で買い物が出て、小切手も書けるようになれと言われその学校へ行かされた。放り込まれたのはいいが勉強が大の苦手。しかも高校の英語成績が2のこの私がまた英語の勉強。こんなことになるならもっと英語の勉強をしておけばよかったと反省した。その学校は、最初に面接をし、その人のレベルにあった段階から英語がスタートする仕組みで、大学に入れる資格を取れるレベルまで。どうせなら小学校からと思い、先生に言ってスタートした。

クラスが始まると色々な国の人がいた。北朝鮮、韓国、中国、インドネシア、ベトナム、その中でも一番気になった一人の老人。お国は？と聞くとベトナムから来た。そのじいちゃん、教科書はボロボロ、ノートも真っ黒。8年間同じクラスから上がれないのだと言う。それでもそのじいちゃん、一生懸命黒板に書かれた字をノートに書き写していた。同じ事を何百回、何千回とこのクラスで書いてきただろう。そのうち学校にも慣れ、ますますじいちゃんに興味を持った私は、毎回じいちゃんに話しかけた。話し始めて分かったが、じいちゃんの話す英語が全く分からない。アクセント、つまりベトナム訛りが強すぎて相手に伝わらないのだ。だから上のクラスへ上がれない。それでも一生懸命勉強しているじいちゃん。もっとじいちゃんのことを知りたくなった私は、ある程度英語ができるベトナム人に通訳してもらいながらじいちゃんと話をした。ハワイに来た理由とか色々気になること全部。ベトナム戦争で逃げてきたことは分かったが、戦争の事は一切話そうとしなかった。通訳してくれた人にそのじいちゃんの家族親戚の人が沢山亡くなったことを後で聞かされた。ベトナムで何の仕事をしていたの？と聞くと、農業をしていた、もち米を沢山作ったと言った。何で同じレベルで上へ上がれないのに学校へ来ているの？と聞いたら、生きているから、学べることに感謝しているから、とニコニコして言ってくれた。その言葉に私は、自分が恥ずかしくなった。本当に恥ずかしくなって、根掘り葉掘り聞いてごめんなさいと思い、私の勉強に対する姿勢も変り、真面目に勉強するようになった。

30年以上前に私が体験した一つの話だが、人生の中には人に影響を与える出逢いがいくつかあると思う。そのじいちゃんのおかげで私は仕事もし、また学校へ通い国家試験を持った。マッサージセラピストとして独立、いっばしの経営者にもなれたのだ。ゴツゴツとした深いしわだらけの手でノートに一生懸命に書いていた姿、毎年5月～6月頃になると田んぼの端に手で苗を植えている人を見かけるたびにじいちゃんのもち米を植えている姿がリンクする。

ハワイで体験した思い出の一つでした。

「国際交流深イ話」に登場したバスビ・チエさんのご主人、バスビ・デイビッドさんのザ・日本です。



## 在住外国人による ザ・日本

第14回

私の人生のほとんどが海外での生活です。裕福な国も貧しい国も見えました。学んだことは、どの国もいい所と悪い所があるということです。独特の歴史や習慣や伝統は利点と欠点があり、それぞれが国の特徴を形作っています。

たとえば、日本では、周りに合わせる必要があります。私の故郷であるアメリカ合衆国は、個人主義を好みます。そのために、多くのクリエイティブな人材を生み出しています。しかしそのせいで暴動が起きることもあります。日本での生活は、私の故郷での生活とは違います。その違いは世界中どこにでもあることです。

日本での面白い経験があります。妻と一緒に旅行で与論島に行きました。そこで会ったある人が私をアメリカ人俳優のクリント・イーストウッドと間違えたようです。繰り返し「クリント・イーストウッドだ！」と叫び、周辺の人々は近くに有名人がいるとぞわつき始めました。私たちにとってはとても気まずい一方で、とてもおかしくて笑ってしまう出来事でもありました。

インドネシアを訪れた時の話です。小さい町を散歩していた時、道端でしゃがんでいる女性と子どもが目に入りました。彼らは私を呼ぶようなジェスチャーをしました。英語を話すこともなく、彼女たちは私を仲間に入れてくれたのです。小さい藁のポウルは温かい玄米でいっぱいでした。そのポウルが一日に一度の食事であることを知りました。そこに座り、代わり番に指を入れ温かいお米をつまみ、口に運びました。私はとても感動しました。見ず知らずの私に示してくれたこの寛大な行為に感銘を受けました。それからまた私は散歩に戻りましたが、この短い時間に起きた出来事は、私が生きている間ずっと心に残るものになるだろうと感じました。その国の環境を作っているもの、それはそこに住む人々であると思います。

様々な国を訪れ思うことは、日本人も他の国の人々と同じです。温かくて冷たく、受け入れる心を持ち、時には無関心、純粋であり不純、元気で明るい人もいれば内気な人も、というように二面性があります。しかし明らかに思うことは、日本人は「外国人」に対し鋭い好奇心を持つ性質であることです。私はこういった性質を受入れることができます。近づいてそして話してください。恐れないでください。なぜなら好奇心というものは教育と理解に繋がるものだからです。

## 新年ポットラックパーティを開催しました

1月21日(土)に、毎年恒例の新年ポットラックパーティを開催しました。24名の皆さんが参加し、互いに新年の挨拶を交わしながらパーティがスタートしました。「さて皆さん、自分の好きなものの絵を3つ書いて胸に貼ってください！」箸梯山を書いた人、赤べこを書いた人、猫を書いた人、スキーを書いた人、みなさんの絵は様々！どうしてその絵を描いたの？絵が上手ですね！といった会話が飛び交い、参加した皆さんがいろいろな方と交流をするきっかけになりました。これは会員さんからのアイデア！ありがとうございました。おいしい料理といろいろな種類のお茶を楽しみながらゆっくりと交流を楽しんだパーティでした。



アップルパイ、いなりずし、スコッチトルティーヤ、ピザ、シチューなどの料理が並びました！



## 「流す？流さない？ — インド番外編」

## 若林 美代の 旅はいつも幸せ気分

VOL.32



海外に出かけて帰国した時「ああ、ここは日本だ～」と感じる場所、それはトイレです。清潔で、便座クリーナーなどの設備があり、時にはウォッシュレット完備の公共トイレなんて、日本にしかありません！有料トイレの習慣がない日本から行くと、小銭ですら「払わなきゃ、だめ？」と思ってしまいますが、払えば一回分のトイレペーパーがもらえて、そこそこ清潔なトイレに入れるといった国がけっこうあるのです。トイレ番は、おばさんのところも若い男子や女子がいるところもあり、スペインの駅では自動改札のような機械が「番」をしていました。これはちょっと、味気ない。

インドをはじめ、イスラム圏や東南アジアには「手洗い水洗」が普通のところが多く、便座のわきにバケツと手桶や、小さいシャワーヘッドがついたホースなどが備えつけられています。いわば、手動ウォッシュレット。だから、右手は食事に使う清潔な手で、左手は「手洗い水洗」に使う不浄の手、というのは有名な話です。インドは又、「野外トイレ」で用を足す人も多く、早朝の長距離列車に乗ってボンヤリ車窓から外を眺めていたら、引き込み線の線路の上でサリ姿の女性がしゃがんでいるのが見えた時はさすがにびっくり！同行の友人は、さる地方都市を一人で歩いていた時、前を歩いていた男性が突然道のまん中で排便行為に及ぶのを目のあたりにしたそうです…スミマセン、こんな話ばかりで。ちゃんとしたトイレを使える人たちも、トイレペーパーは使わないそうで、泊まったホテルのトイレに紙がおいてなくて、後から持ってきてもらったこともあり。そして、紙を使ったとしても流してはいけません。必ず、ゴミ箱に捨てること。慣れるまでは、つい流しそうになって何度拾い上げたことか…。紙を流すのがNGなのは、「手洗い水洗」をしない南米でも同じ。紙質の問題や、下水道設備が整っていないせいだと聞きました。

さて、去年はモロッコに行きましたが、ここもイスラムの国なので基本は「手洗い水洗」。けれども、欧米からの観光客が多く、都市のホテルは紙を流してもOKなので、かえって混乱してしまいました。そして、帰国便の乗り継ぎはフランス、パリのシャルル・ドゴール空港でした。トイレには、巨大なトイレペーパー・ホルダーの下に、これ又大きいゴミ箱が設置されていて、ほぼ満杯の使用済の紙が…え、ここってどこ！？と一瞬あわてた私。流しちゃいけないのか！？しかし冷静に考えれば、これはいわゆる「汚物入れ」であり(蓋はついてませんが)、紙を捨てたのは、それが習慣だった国から来た人たちだったので。はて、トイレにおける「グローバル・スタンダード」とは何なのか？とふと考えてしまったのでした。

